

カリキュラム

機構施設名： 沖縄職業能力開発促進センター
実施機関名： 一般社団法人中部産業連盟

B. 組織マネジメント		若手従業員に気付きを与える安全衛生活動(実施編)
	リスクマネジメント	

コースのねらい	中堅・ベテラン従業員がこれまでの経験を活かして、自ら安全衛生活動に取り組むことにより企業内の安全意識の向上に寄与するとともに、誰もが実施している5S等を通じて、若手従業員に対して安全活動の重要性について伝達するための知識と技能を習得する。
---------	---

講義内容	「基本項目」		「主な内容」	訓練時間 (H)
	1	■ 安全衛生意識の醸成	(1)災害はどのような状態、状況で発生するのか 1 不安全行動と不安全状態 2 人的対策と物的対策 3 労働安全衛生法で事業者求められる役割 (2)安全衛生とは 1 労働災害防止 (STOP6、資格確認、各設備安全装置・危険物等) 2 安全装置の種類 【演習】写真または現場確認(安全推進項目を持参)	1.0
	2	■ 安全衛生活動の考え方	(1)危険性、有害性等の調査及びその結果に基づき講ずる処置に関すること 1 危険性又は有害性等の調査の方法 2 危険性又は有害性等の調査の結果に基づき講ずる措置 3 設備、作業等の具体的な改善の方法 【演習・現場又は写真】・現場または写真で確認(安全推進項目を持参) (2)作業者に対する指導又は監督の方法に関すること 1 労働災害防止 作業手順の定め方(正常作業域と最適作業域) 2 3大ヒューマンエラーと対策・【演習】4RKY	2.5
	3	■ ノウハウの伝承方法	(1)知識の整理と伝承 1. 過去の労働災害・ヒヤリハット事例のデータベース化と教材化 ・ハインリッヒの法則 ・「ヒヤリハット」の定義と、報告しやすい風土づくり 2. 統計データや加工理論に基づく「根拠(Why)」の体系化 (2)暗黙知の表出と形式知への変換(マニュアル化) 1. トラブル・ヒヤリハット映像を活用した「五感のトリガー」の言語化 ・正常な状態の五感データ(正常な駆動音、正常な振動) 2. 図面や現物(実機)と紐づいた「判断基準」のビジュアルマニュアル化 ・マニュアルのメンテナンス方法 ・現場からの改善フィードバックの手順 (3)役割を踏まえた現場力の伝承 1. 現物・実機を用いた「模擬体験型」危険予知(KY)訓練の実施 2. ベテランから中堅・次世代リーダーへの教え方・指導スキルの伝承 ・安全作業の単独習得レベルの判定基準(チェックリストの活用法) ・指導後のフォローアップ期間の設け方	2.5
				合計時間 6.0